

様式1

大学等名	筑紫女学園大学
プログラム名	データサイエンス教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」の2科目(計2単位)を取得すること。

必要最低科目数・単位数

2 科目

2 単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス基礎演習	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス基礎演習	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス基礎演習	1	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理基礎演習	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎演習	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎演習	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化(データサイエンス基礎演習 第2回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(データサイエンス基礎演習 第2回) ・複数技術を組み合わせたAIサービス(データサイエンス基礎演習 第2回) ・人間の知的活動とAIの関係性(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方(データサイエンス基礎演習 第2回)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)(データサイエンス基礎演習 第4回) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)(データサイエンス基礎演習 第4回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(データサイエンス基礎演習 第2回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化(データサイエンス基礎演習 第2回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データ作成(ビッグデータとアナレーション)(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データのオープン化(オープンデータ)(データサイエンス基礎演習 第2回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(データサイエンス基礎演習 第3回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(データサイエンス基礎演習 第3回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など(データサイエンス基礎演習 第3回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など(データサイエンス基礎演習 第3回) ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など(データサイエンス基礎演習 第3回) ・非構造化データ処理:言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など(データサイエンス基礎演習 第3回) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ(データサイエンス基礎演習 第3回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術(データサイエンス基礎演習 第3回)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)(データサイエンス基礎演習 第4回) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介(データサイエンス基礎演習 第4回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)(情報処理基礎演習 第12、13回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト(情報処理基礎演習 第12、13回) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(情報処理基礎演習 第12、13回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)(情報処理基礎演習 第12、13回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス(情報処理基礎演習 第12、13回) ・AIサービスの責任論(情報処理基礎演習 第12、13回) ・データ・AI活用における負の事例紹介(情報処理基礎演習 第12、13回)
	3-2	・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性(情報処理基礎演習 第14回) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(情報処理基礎演習 第14回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(情報処理基礎演習 第14回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(データサイエンス基礎演習 第6、9、10回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)(データサイエンス基礎演習 第6回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)(データサイエンス基礎演習 第7回) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(データサイエンス基礎演習 第12回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)(データサイエンス基礎演習 第11回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)(データサイエンス基礎演習 第5、6、7、9、10回)
	2-3	・データの集計(和、平均)(データサイエンス基礎演習 第6回) ・データの並び替え、ランキング(データサイエンス基礎演習 8回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)(データサイエンス基礎演習 8回) ・表形式のデータ(csv)(データサイエンス基礎演習 8回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な知識・能力を身に付けること。
- ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をベースに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる能力を身に付けること。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 0人 女性 2081人 (合計 2081人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	776	270	1,096	148	122											148	14%
人間科学部	1,013	280	1,120	205	192											205	18%
現代社会学部	292	120	480	53	49											53	11%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
合 計	2,081	670	2,696	406	363	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	406	15%

大学等名 筑紫女学園大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 85 人 (非常勤) 182 人

② プログラムの授業を教えている教員数 5 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 石原 努

(役職名) 教学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

教学推進会議

(責任者名) 石原 努

(役職名) 教学部長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

筑紫女学園大学教学推進会議内規

⑥ 体制の目的

統合教育センター及び情報化・ICT活用推進センターの任務及び業務について審議し、統合教育センター及び情報化・ICT活用推進センターの円滑な執行を図ることを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

本会議は、次に掲げる委員をもって構成する。

(1) 教学部長: 人間科学部 人間科学科 初等教育・幼児保育専攻 教授 石原 努

(2) 統合教育センター長: 人間科学部 人間科学科 初等教育・幼児保育専攻 教授 石原 努
情報化・ICT活用推進センター長: 人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 准教授 持尾 弘司

(3) 各学科・専攻の教育職員:

文学部 日本語・日本文学科 教授 森田 真也

文学部 英語学科 教授 荒巻 龍也

文学部 アジア文化学科 准教授 横山 豪志

人間科学部 人間科学科 心理・社会福祉専攻 准教授 持尾 弘司

人間科学部 人間科学科 初等教育・保育専攻 准教授 今里 順一

現代社会学部 現代社会学科 教授 佐々木 浩

(4) 教学支援部長: 教学支援部 田中 正人

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	15%	令和7年度予定	45%	令和8年度予定	70%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	2,696

具体的な計画

「データサイエンス教育プログラム」は、令和6年度より開始した取り組みであり、同年度の入学生からを対象に実施している。本プログラムを構成する科目は、全て1年次に開講される全学部共通科目かつ卒業要件必修科目である。全学生が必ず、本プログラムを履修する仕組みとしており、令和9年度以降にはプログラム履修率を100%とする。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、全学共通科目かつ1年次科目として開講しているため、令和6年度以降の入学者は、学部・学科を問わず、全員が受講可能としている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムを構成する「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、いずれも1年次から開講される卒業要件必修科目である。1年次の履修登録時には各学科・専攻のガイダンスにおいて履修指導を実施する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、全学共通科目かつ1年次開講科目として位置づけられており、学部・学科を問わず履修可能である。各学科・コースのカリキュラムに柔軟に対応するため、複数の曜日・時限にわたり、学科・コースごとにクラスを設置し、履修しやすい体制を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業シラバスにはオフィスアワーの時間帯を明記し、授業外における学生からの質問に対応する体制を整備している。加えて、Microsoft 365の環境を活用し、Microsoft Teamsを通じてオンラインでの対応も実施しており、オフィスアワー以外の時間帯においても質問の受付が可能な体制としている。

また、授業の中間期および期末には、アンケートを通じて学生からの意見や改善要望をもとに授業内容や運営方法の改善を図っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

統合教育センター／情報化・ICT活用推進センター

(責任者名) 石原 努／持尾 弘司

(役職名) 統合教育センター長／情報化・ICT活用推進センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度より、本プログラムを開始し、同年度以降の入学学生から適用している。プログラムを構成する「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、全学共通の卒業要件必修科目として1年次に開講しており、入学学生には卒業要件必修科目でもある当該プログラムを履修するよう指導している。 令和6年度入学学生全体のプログラム履修率は96.0%。内プログラム修得率は、89.4%となった。
学修成果	教育プログラムの各科目で実施する「授業アンケート」の中で、受講した学生が感じている「学修成果(知識やスキルがどの程度身に付いたか)」を聞き取り、学生が苦手意識を持っている学修項目を明らかにした。これらの項目の学修成果が高まるように、来年度に向けて授業内容の改善を図っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では、全ての授業科目を対象に「授業に関するアンケート」を年間4回(前期中間・前期期末・後期中間・後期期末)実施している。アンケートには自由記述欄を設けており、学生からの率直な意見を収集できるようにしている。 結果は、担当教員が確認した後、フィードバックとして履修者に対しコメントを記述し、共有する仕組みとしている。これらのアンケートは、自己点検・評価活動とあわせて、本プログラムに関する検証および分析における基礎データとして活用している。あわせて、授業内では小テストや課題を通じて学生の理解度を把握している。 本プログラム構成科目の理解度(5点満点中)は以下の通り。 ・「情報処理基礎演習」: 平均3.94pt ・「データサイエンス基礎演習」: 平均4.15pt
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では、すべての授業科目を対象に「授業に関するアンケート」を年間4回(前期中間と期末、後期中間と期末)実施している。期末アンケートには、「この授業を後輩にも勧めたいか」という設問を含んでおり、「大いに思う」から「全くそう思わない」までの5段階で評価を得ることで、授業の推奨度を把握できるようにしている。 本プログラム構成科目の評価(5点満点中)は以下の通り。 ・「情報処理基礎演習」: 平均3.89pt ・「データサイエンス基礎演習」: 平均3.98pt

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する科目は、1年次開講の全学共通科目であり、卒業要件を満たす必修科目として位置付けている。このため、入学時の履修登録に際しては、オリエンテーションの場で履修指導を実施している。令和6年度においては、1年生全体の96.0%が当該プログラムを履修した。履修登録漏れを防ぐため、各学科・コースにおいて履修指導を徹底している。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和6年度に開始され、現時点では修了者がまだ在学中であり、進路状況については確定していない。今後、修了者の進路について調査を実施予定であり、特に情報関連分野への就職を希望する学生も増えることが予想される。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムについては、現時点で産業界からの直接的な意見は得ていないものの、教育課程および学修成果の点検・評価を依頼している企業に対して、本プログラムに関する意見を求める機会を設けることを検討している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	社会で求められるインターネットを活用した情報探索・発信、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使用し、各回でテーマに沿った具体的な課題に取り組ませている。また、AIおよびデータサイエンスの最新の動向を踏まえ、社会の変化やデータ分析について演習を通じて学ばせることにより、段階的に学びを深めている。これにより、文系学生の苦手意識を軽減し、達成感を得ることで、学ぶ楽しさや意義を実感できるような授業を提供している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	授業アンケートには、「授業の内容について十分に理解できた」「授業の難易度は適切であった」などの項目があり、それぞれを5段階（大いに思う、思う、どちらともいえない、そう思わない、全くそう思わない）で評価できる形式となっている。これらのアンケート結果は、担当教員が把握し、授業内容の改善に活用している。また、アンケート結果は全教職員にも開示されるため、担当教員だけでなく、統合教育センターにおいても授業内容および水準の維持・向上を図ることができる。

授業科目名	情報処理基礎演習（日文Aクラス）	授業コード	10119001	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習（日文Bクラス）	授業コード	10119002	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	富永 信一				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (英語)	授業コード	10119004	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	富永 信一				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	英語学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット (情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (Word) 基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回 (Word) オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像 (図・写真)	予習：教科書 p.79～p.92
第3回 (Word) 書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回 (Excel) Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回 (Excel) 書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回 (Excel) 高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回 (Excel) データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回 (Powerpoint)プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回 (Powerpoint)プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回 (AI・データサイエンスの心得) AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分 (約45分／週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B～Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

（１）筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (アジアクラス)	授業コード	10119005	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式		予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）		予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定		予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用：データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数		予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ：行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け		予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数：RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、p.188～p.190		予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel）データベース・ピボットテーブル：リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル		予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成：プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図		予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式：発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷		予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習		復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説		復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1		復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2		復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項		復習：授業資料
アクティブ・ラーニング		
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (7ｼﾞｱBｸﾗｽ)	授業コード	10119006	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (心理Aクラス)	授業コード	10119010	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット (情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (Word) 基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式		予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回 (Word) オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像 (図・写真)		予習：教科書 p.79～p.92
第3回 (Word) 書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定		予習：教科書 p.93～p.105
第4回 (Excel) Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数		予習：教科書 p.110～p.136
第5回 (Excel) 書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け		予習：教科書 p.140～p.162
第6回 (Excel) 高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190		予習：教科書 p.196～p.210
第7回 (Excel) データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル		予習：教科書 p.175～p.185
第8回 (Powerpoint)プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図		予習：教科書 p.196～p.210
第9回 (Powerpoint)プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷		予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習		復習：教科書：p5～232
第11回 (AI・データサイエンスの心得) AIおよびビッグデータについての解説		復習：授業資料
第12回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項1		復習：授業資料
第13回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項2		復習：授業資料
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習：授業資料
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等	
授業外学修時間	合計625分 (約45分／週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B～Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習（心理Bクラス）	授業コード	10119011	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (福祉)	授業コード	10119009	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 社福
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット (情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報 (使用するツール・課題の設定場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS (筑女ネット) を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】
第1回 (Word) 基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回 (Word) オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像 (図・写真)	予習：教科書 p.79～p.92
第3回 (Word) 書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回 (Excel) Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回 (Excel) 書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回 (Excel) 高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回 (Excel) データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回 (Powerpoint)プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回 (Powerpoint)プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回 (AI・データサイエンスの心得) AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分 (約45分／週) が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期試験など)	平素の成績によって評価する (B～Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

（１）筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習（初等Aクラス）	授業コード	10119013	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

	(１) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習（初等Bクラス）	授業コード	10119014	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式		予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）		予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定		予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数		予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け		予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190		予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル		予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図		予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷		予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習		復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説		復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1		復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2		復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項		復習：授業資料
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

	(１) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習（幼保）	授業コード	10119012	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 幼保
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

	(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習（現社Aｸｽ）	授業コード	10119007	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	(Word, Excel, Powerpointについて) 演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

	(１) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習（現社Bクラス）	授業コード	10119008	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット（情報探索・発信）、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	演習素材の提供や課題の提出にはLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容	授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（Word）基本的な文書の作成：文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段落書式	予習：教科書 p.5～p.12、p.64～p.78
第2回（Word）オブジェクトの取り扱い：表、図形、画像（図・写真）	予習：教科書 p.79～p.92
第3回（Word）書式の応用と発展：箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定	予習：教科書 p.93～p.105
第4回（Excel）Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数	予習：教科書 p.110～p.136
第5回（Excel）書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け	予習：教科書 p.140～p.162
第6回（Excel）高度な関数： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習：教科書 p.136～p.139、p.163～p.174、 p.188～p.190	予習：教科書 p.196～p.210
第7回（Excel） データベース・ピボットテーブル： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル	予習：教科書 p.175～p.185
第8回（Powerpoint）プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習：教科書 p.196～p.210
第9回（Powerpoint）プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習：教科書 p.211～p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint演習	復習：教科書：p5～232
第11回（AI・データサイエンスの心得）AIおよびビッグデータについての解説	復習：授業資料
第12回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項1	復習：授業資料
第13回（AI・データサイエンスの心得）データ・AIを扱う上での留意事項2	復習：授業資料
第14回（AI・データサイエンスの心得）データを守る上での留意事項	復習：授業資料
アクティブ・ラーニング	
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）	65	（Word, Excel, Powerpointについて）演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	（AI・データサイエンスの心得について）理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果（評価点）をLMS（筑女ネット）に表示する。小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2021対応版	矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

	(１) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（日文Aクラス）	授業コード	41014001	科目ナンバリング（1、2年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（日文Bクラス）	授業コード	41014002	科目ナンバリング（1、2年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	富永 信一				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (英語)	授業コード	41014004	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	富永 信一				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	英語学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (7シ7Aクラス)	授業コード	41014005	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (7シ7Bクラス)	授業コード	41014006	科目ナンバリング (1、2年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（心理Aクラス）	授業コード	41014010	科目ナンバリング（1、2年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（心理Bクラス）	授業コード	41014011	科目ナンバリング（1、2年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (福祉)	授業コード	41014009	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 社福
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータ の概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（初等Aクラス）	授業コード	41014013	科目ナンバリング（1、2年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータ概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（初等Bクラス）	授業コード	41014014	科目ナンバリング（1、2年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（幼保）	授業コード	41014012	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 幼保
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータ概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40%：第1回～第12回の小テスト、提出物 10%：第13回の総合演習 40%：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（現社Aｸｽ）	授業コード	41014007	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40％：第1回～第12回の小テスト、提出物 10％：第13回の総合演習 40％：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習（現社Bｸﾗｽ）	授業コード	41014008	科目ナンバリング（1、2 年次科目のみ）	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	AIおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAIの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理解理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報（使用するツール・課題の設定場所など含）	資料の提供、課題提出等にLMS（筑女ネット）を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修（予習復習含む）【想定時間（分）】
第1回（授業ガイダンス）対象分野の概観および演習作業についての説明		復習：授業内容
第2回（導入）1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習：教科書 p.8～p.17
第3回（導入）1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術		予習：教科書 p.18～p.26
第4回（導入）1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向		予習：教科書 p.27～p.37
第5回（基礎）2-1. Excelの基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化		予習：教科書 p.38～p.71
第6回（基礎）2-3. 平均の算出とその可視化		予習：教科書 p.72～p.83
第7回（基礎）2-4. 標準偏差の算出とその可視化		予習：教科書 p.84～p.97
第8回（基礎）2-5. 大量のデータを扱う方法		予習：教科書 p.98～p.113
第9回（基礎）2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習：教科書 p.114～p.128
第10回（基礎）2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習：教科書 p.129～p.141
第11回（基礎）2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習：教科書 p.142～p.154
第12回（基礎）2-9. 定性データの扱い方とクロス集計		予習：教科書 p.155～p.165
第13回 総合演習		復習：教科書 p.8～p.165
第14回 到達度確認演習		復習：教科書 p.8～p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等／メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会	
授業外学修時間	合計625分（約45分／週）が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について（定期試験など）	平素の成績によって評価する（B～Eに記載）	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート試験/実技/口述)		
B.レポート（定期試験以外）		
C.小テスト等	90	40％：第1回～第12回の小テスト、提出物 10％：第13回の総合演習 40％：第14回の到達度確認演習
D.成果発表		
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。
課題（試験や小テスト、レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり（下記教科書を購入してください）
-------	----------------------

教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラシー入門（改訂新版）」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン（Teamsを使用）での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。			
授業に関する実務経験	なし			

この科目が目的としているDP

カリキュラム学科 2025年度 前期 大学 文学部 日本語日本文学科

(1) 筑女DP（卒業までに身につく力）の積み上げ【日本語・日本文学科】：科目の修得に応じて 学修率		
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図ることができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

[文学部]

日本語・日本文学科 開講科目表

○は必修科目

区 分			第 一 年 次		第 二 年 次		第 三 年 次		第 四 年 次		卒業に必要な単位数				合計	備 考					
			授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期			必修	選択単位			
全 学 共 通 科 目	コ ア	仏教	○仏教と人間Ⅰ ○仏教と人間Ⅱ	2 2	前 後	○仏教と社会Ⅰ ○仏教と社会Ⅱ	2 2	前 後						8		124	●全学共通科目 ・必修科目16単位を 修得しなければならない。 ・「コア」の「女性」 「スキルズ」の「基礎」 「情報」より必修 科目以外に2単位 以上修得しなければ ならない。 ・「スキルズ」の「コ ミュニケーション」 より2単位以上修得 しなければならない。 ・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ のドア」より、それ ぞれ2単位以上修得 しなければならない。 ・「Global Project」 「SocialProject」 は、大学で定められ る各種活動に組み 入る、その活動内容・ 時間等により単位を 認定する。それぞれ 6単位まで修得する ことができる。				
		女性	○キャリアデザイン ○ジェンダー論入門 女性とウエルネスⅠ 女性とウエルネスⅡ	2 2 1 1	前 後 前 後	女性とキャリア A 女性とキャリア B 女性と文化 A 女性と文化 B ウエルネス・スポーツ論	1 1 1 1 1	前 後 前 後 前						4	2						
		ス キ ル ズ	基礎	○基礎ゼミナール 日本語コミュニケーション	2 2	前 後												2			
			情報	○情報処理基礎演習 ○データサイエンス基礎演習 情報科学概論	1 1 2	前 後 後	データサイエンス応用演習 A データサイエンス応用演習 B	1 1	前 後									2			
	コミュニケーション			英語スキルズⅠ 英語スキルズⅡ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ はじめての手話Ⅰ はじめての手話Ⅱ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	前 後 前 後 前 後 前 後 前 後	英語スキルズⅢ TOEIC Preparation	1 1	前 後									2			
				世界へのドア	国際社会と文化 A 国際社会と文化 B スタディ・アプロード A スタディ・アプロード B Global Project	2 2 2 2 1	前 後 後 前 後												2		
			社会へのドア		キャリアコミュニケーション パーソナルファイナンス Social Project	1 1 1	後 後 後	キャリアプラン 企業研究 インターンシップ研究	1 1 1	前 前 前									2		
					学びへのドア	哲学 倫理 メディア 芸術 教育 心理 環境 生命	1 1 1 1 1 1 1 1	前 後 前 前 前 前 前 前	ダイバーシティ論 日本国憲法 人権教育	2 2 2	後 前 後									2	

[文学部]

英語学科 開講科目表

○は必修科目

[illegible][illegible]

[文学部]

アジア文化学科 開講科目表

○は必修科目

区 分			第 一 年 次			第 二 年 次			第 三 年 次			第 四 年 次			卒業に必要な単位数				合 計	備 考			
			授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	必修	必修 選択	学科 選択	自由 選択					
全 学 共 通 科 目	コ ア	仏教	○仏教と人間Ⅰ ○仏教と人間Ⅱ	2 2	前 後	○仏教と社会Ⅰ ○仏教と社会Ⅱ	2 2	前 後						8				20	124	◎全学共通科目 ・必修科目16単位を 修得しなければならない。 ・「コア」の「女性」「ス キルズ」の「基礎」 「情報」より必修科 目以外に2単位以上 修得しなければならない。 ・「スキルズ」の「コミュ ニケーション」より 2単位以上修得しな ければならない。 ・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ のドア」より、それ ぞれ2単位以上修 得しなければならない。 ・「Global Project」 「Social Project」は、 大学で定められる各 種活動に取り組み、 その活動内容・時間 等により単位を認定 する。それぞれ6単 位まで修得すること ができる。			
		女性	○キャリアデザイン ○ジェンダー論入門 女性性とウェルネスⅠ 女性性とウェルネスⅡ	2 2 1 1	前 後 前 後	女性性とキャリアA 女性性とキャリアB 女性性と文化A 女性性と文化B ウェルネス・スポーツ論	1 1 1 1 1	前・後 前・後 前・後 前・後 前・後						4									
		ス キ ル ズ	基礎	○基礎ゼミナール 日本語コミュニケーション	2 2	前 後										2							
			情報	○情報処理基礎演習 ○データサイエンス基礎演習	1 1	前 後	データサイエンス応用演習A データサイエンス応用演習B	1 1	前・後 前・後							2							
	情報科学概論			2	後																		
	コミュニケーション		英語スキルズⅠ 英語スキルズⅡ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1 1 1 1	前 後 前 後	英語スキルズⅢ TOEIC Preparation	1 1	前 後													2		
			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	1 1 1 1	前 後 前 後																		
			はじめての手話Ⅰ はじめての手話Ⅱ	1 1	前 後																		
			世界へのドア	国際社会と文化A 国際社会と文化B スタディ・アプロードA スタディ・アプロードB Global Project	2 2 2 2 1	前 後 前 前 後																2	
				社会への ドア	キャリアコミュニケーション パーソナルファイナンス Social Project	1 1 1	後 後 後	キャリアプラン 企業研究 インターンシップ研究	1 1 1	前 前 前													2
					学びへのドア	哲学 倫理 メディア 芸術 教育 心理 環境 生命	1 1 1 1 1 1 1 1	前・後 前・後 前・後 前・後 前・後 前・後 前・後 前・後	ダイバーシティ論 日本国憲法 人権教育	2 2 2	後 前・後 後												

〔人間科学部〕

人間科学科 心理・社会福祉専攻 心理コース 開講科目表

○は必修科目

区 分			第 一 年 次			第 二 年 次			第 三 年 次			第 四 年 次			卒業に必要な単位数				合 計	備 考		
			授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	選択単位							
															必修 選択	専攻 選択	自由 選択					
全 学 共 通 科 目	コ ア	仏 教	○仏教と人間Ⅰ	2	前	○仏教と社会Ⅰ	2	前								8				◎全学共通科目 ・必修科目16単位を 修得しなければならない。 ・「コア」の「女性」「ス キルズ」の「基礎」 「情報」より必修科 目以外に2単位以上 修得しなければならない。 ・「スキルズ」の「コミュ ニケーション」より 2単位以上修得しな ければならない。 ・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ のドア」より、それ ぞれ2単位以上修 得しなければならない。 ・「Global Project」 「Social Project」は、 大学で定められる各 種活動に取り組む、 その活動内容・時間 等により単位を認定 する。それぞれ6単 位まで修得すること ができる。		
			○仏教と人間Ⅱ	2	後	○仏教と社会Ⅱ	2	後														
		女 性	○キャリアデザイン	2	前	女性とキャリア A	1	前・後											2			
			○ジェンダー論入門	2	後	女性とキャリア B	1	前・後														
	女性とウェルネスⅠ		1	前	女性と文化 A	1	前・後															
	女性とウェルネスⅡ		1	後	女性と文化 B	1	前・後															
	ス キ ル ズ	基 礎	○基礎ゼミナール	2	前												2				20	
			日本語コミュニケーション	2	後																	
		情 報	○情報処理基礎演習	1	前	データサイエンス応用演習 A	1	前・後											2			
			○データサイエンス基礎演習	1	後	データサイエンス応用演習 B	1	前・後														
			情報科学概論	2	後																	
		「コミュニケーション」	英語スキルズⅠ	1	前	英語スキルズⅢ	1	前											2			
			英語スキルズⅡ	1	後	TOEIC Preparation	1	後														
			フランス語Ⅰ	1	前																	
			フランス語Ⅱ	1	後																	
			中国語Ⅰ	1	前																	
			中国語Ⅱ	1	後																	
			韓国語Ⅰ	1	前																	
			韓国語Ⅱ	1	後																	
			はじめての手話Ⅰ	1	前																	
はじめての手話Ⅱ			1	後																		
ド ア ー ズ		世 界 へ の ド ア	国際社会と文化 A	2	前													2				
	国際社会と文化 B		2	後																		
	スタディ・アブロード A		2	後																		
	スタディ・アブロード B		2	前																		
	Global Project		1	後																		
学 び へ の ド ア	の 社 会 へ の ド ア	キャリアコミュニケーション	1	後	キャリアアプラン	1	前										2					
		パーソナルファイナンス	1	後	企業研究	1	前															
		Social Project	1	後	インターンシップ研究	1	前															
	学 び へ の ド ア	哲学	1	前・後	ダイバーシティ論	2	後											2				
		倫理	1	前・後	日本国憲法	2	前															
		メディア	1	前・後	人権教育	2	後															
		芸術	1	前・後																		
		教育	1	前・後																		
		心理	1	前・後																		
環境	1	前・後																				
生命	1	前・後																				

専攻科目	基礎科目	心理学概論	2 前	教育・学校心理学	2 前	カウンセリング概論	2 前	心理・社会福祉実践演習	2 前	6	36	◎専攻科目 ・必修科目 8 単位を修得しなければならない。 ・「基礎科目」より 6 単位以上修得しなければならない。 ・「基幹科目」より必修科目以外に 16 単位以上修得しなければならない。 ・「発展科目」より必修科目以外に 12 単位以上修得しなければならない。 ・専攻選択として、上記以外に 36 単位以上修得しなければならない。 ・「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」「卒業論文」の履修要件については、別に定める。 ・他学部等科目は 20 単位を上限に「自由選択科目」単位として含めることができる。 ※他学部等科目に人間科学部他コース科目を含む。 ※免許、資格、副専攻の取得に必要な科目の修得単位数、修得方法については、別に定める。 ※授業科目は、年度によって開講年次や時期が変わることがあるので、授業時間割や掲示に注意すること。	
		発達心理学	2 前	臨床心理学概論	2 前								
		ソーシャルワーク総論Ⅰ	2 前	家族社会学	2 前								
		ソーシャルワーク総論Ⅱ	2 後	地域社会学	2 後								
		社会学概論Ⅰ	2 前	地誌学	2 前								
		政治学概論（国際政治学を含む）	2 前	人文地理学	2 前								
		経済学概論（国際経済学を含む）	2 後	自然地理学	2 後								
		法律学（国際法を含む）	2 後										
		日本史	2 前										
	世界史	2 後											
専攻科目	基幹科目	○心理基礎ゼミナール	2 後	学習・言語心理学	2 前	心理学統計法	2 前			2	16	36	
		心理学実験	2 後	心理学研究法	2 後	社会・集団・家族心理学（家族心理学）	2 前						
		感情・人格心理学	2 前	公認心理師の職責	2 後	社会・集団・家族心理学（社会・集団心理学）	2 後						
		障害者・障害児心理学	2 前	心理学的支援法	2 後	健康・医療心理学	2 後						
		人体の構造と機能及び疾病	2 後	精神疾患とその治療	2 後	神経・生理心理学	2 後						
		発達臨床心理学	2 後	福祉心理学	2 前	発達障害者の心理と支援	2 後						
		教育心理学概論	2 前	心理学とキャリアデザイン	2 前								
		知覚・認知心理学	2 後										
	発展科目	コミュニケーションスキルⅠ	2 後	心理的アセスメントⅠ	2 前	関係行政論	2 前	心理実習Ⅱ	2 通	2 通	12		
				心理的アセスメントⅡ	2 後	司法・犯罪心理学	2 前						
				心理文献演習Ⅰ（乳幼児）	2 後	産業・組織心理学	2 前						
				心理文献演習Ⅰ（児童・青年）	2 後	心理演習	2 前						
				心理文献演習Ⅰ（成人）	2 後	心理実習指導	1 前						
				グループアプローチ	2 前	心理学のフィールドワーク	2 前						
				コミュニケーションスキルⅡ	2 後	心理文献演習Ⅱ（臨床）	2 前						
						心理文献演習Ⅱ（福祉・教育）	2 前						
ゼミナール					心理文献演習Ⅱ（文献講読）	2 前			2 前 2 後 4 通	6			
					ストレスマネジメント演習	2 後							
					職業心理学（働き方と心理学）	2 後							
					体験的アプローチ演習	2 後							
					プレゼンテーション演習	2 後							
					発達援助の技法	2 後							
					心理実習Ⅰ	2 通							
					○心理専門ゼミナール	2 後	○卒業ゼミナールⅠ ○卒業ゼミナールⅡ 卒業論文						
									24	44	36	20	124

区 分			第一 年 次			第二 年 次			第三 年 次			第四 年 次			卒業に必要な単位数				備 考	
			授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	必修	選択単位	専攻 選択	自由 選択		合計
全 学 共 通 科 目	コ ア	仏教	○仏教と人間Ⅰ	2	前	○仏教と社会Ⅰ	2	前						8				124	◎全学共通科目 ・必修科目16単位を 修得しなければならない。 ・「コア」の「女性」「ス キルズ」の「基礎」 「情報」より必修科 目以外に2単位以上 修得しなければならない。 ・「スキルズ」の「コミュ ニケーション」より 2単位以上修得しな ければならない。 ・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ のドア」より、それ ぞれ2単位以上修 得しなければならない。 ・「Global Project」 「Social Project」は、 大学で定められる各 種活動に取り組み、 その活動内容・時間 等により単位を認定 する。それぞれ6単 位まで修得すること ができる。	
			○仏教と人間Ⅱ	2	後	○仏教と社会Ⅱ	2	後												
		女性	○キャリアデザイン	2	前	女性とキャリアA	1	前							4					
			○ジェンダー論入門	2	後	女性とキャリアB	1	前												
			女性とウエルネスⅠ	1	前	女性と文化A	1	前												
			女性とウエルネスⅡ	1	後	女性と文化B	1	前												
	ス キ ル ズ	基礎	○基礎ゼミナール	2	前										2					
			日本語コミュニケーション	2	後															
		情報	○情報処理基礎演習	1	前	データサイエンス応用演習A	1	前							2					
			○データサイエンス基礎演習	1	後	データサイエンス応用演習B	1	前												
		『コミュニケーション』	情報科学概論	2	後															
			英語スキルズⅠ	1	前	英語スキルズⅢ	1	前							2					
			英語スキルズⅡ	1	後	TOEIC Preparation	1	後												
			フランス語Ⅰ	1	前															
			フランス語Ⅱ	1	後															
			中国語Ⅰ	1	前															
			中国語Ⅱ	1	後															
			韓国語Ⅰ	1	前															
			韓国語Ⅱ	1	後															
		はじめての手話Ⅰ	1	前																
はじめての手話Ⅱ	1	後																		
ド ア ー ズ	世界へのドア	国際社会と文化A	2	前										2						
		国際社会と文化B	2	後																
		スタディ・アップロードA	2	後																
		スタディ・アップロードB	2	前																
	の社会へ	Global Project	1	後																
		キャリアコミュニケーション	1	後	キャリアプラン	1	前							2						
		パーソナルファイナンス	1	後	企業研究	1	前													
	Social Project	1	後	インターンシップ研究	1	前														
	学びへのドア	哲学	1	前	ダイバーシティ論	2	後								2					
		倫理	1	前	日本国憲法	2	前													
メディア		1	前	人権教育	2	後														
芸術		1	前																	
教育		1	前																	
心理		1	前																	
環境	1	前																		
生命	1	前																		

専 攻 科 目	基礎科目	心理学概論	2	前	教育・学校心理学	2	前	カウンセリング概論	2	前	心理・社会福祉実践演習	2	前	6	36	◎専攻科目 ・必修科目8単位を修得しなければならない。 ・「基礎科目」より6単位以上修得しなければならない。 ・「基幹科目」より必修科目以外に16単位以上修得しなければならない。 ・「発展科目」より必修科目以外に12単位以上修得しなければならない。 ・専攻選択として、上記以外に36単位以上修得しなければならない。 ・「卒業ゼミナールⅠ」「卒業論文」の履修要件については、別に定める。 ・他学部等科目は20単位を上限に「自由選択科目」単位として含めることができる。 ※他学部等科目に人間科学部他コース科目を含む。 ※免許、資格、副専攻の取得に必要な科目の修得単位数、修得方法については、別に定める。 ※授業科目は、年度によって開講年次や時期が変わることがあるので、授業時間割や掲示に注意すること。	
		発達心理学	2	前	臨床心理学概論	2	前										
		ソーシャルワーク総論Ⅰ	2	前	家族社会学	2	前										
		ソーシャルワーク総論Ⅱ	2	後	地域社会学	2	後										
		社会学概論Ⅰ	2	前	地誌学	2	前										
		政治学概論(国際政治学を含む)	2	前	人文地理学	2	前										
		経済学概論(国際経済学を含む)	2	後	自然地理学	2	後										
		法律学(国際法を含む)	2	後													
	日本史	2	前														
	世界史	2	後														
	基幹科目	○社会福祉基礎ゼミナール	2	後	社会保障論Ⅰ	2	前	ソーシャルワークの方法Ⅲ	2	前				2			16
		社会福祉原論Ⅰ	2	前	社会保障論Ⅱ	2	後	ソーシャルワークの方法Ⅳ	2	後							
社会福祉原論Ⅱ		2	後	ソーシャルワークの方法Ⅰ	2	前	地域福祉論Ⅰ	2	前								
医学概論Ⅰ		2	前	ソーシャルワークの方法Ⅱ	2	後	地域福祉論Ⅱ	2	後								
	医学概論Ⅱ	2	後	精神医学Ⅰ	2	前	社会福祉運営管理論	2	後								
	社会学概論Ⅱ	2	後	精神医学Ⅱ	2	前	社会福祉調査法	2	後								
	権利擁護を支える法制度論Ⅰ	2	前	精神保健学Ⅰ	2	前											
	権利擁護を支える法制度論Ⅱ	2	後	精神保健学Ⅱ	2	後											
発展科目				精神保健福祉の原理Ⅰ	2	前								12			
				精神保健福祉の原理Ⅱ	2	後											
				スクール(学校)ソーシャルワーク論	2	後											
				公的扶助論	2	後	医療福祉論	2	前	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	前					
				高齢者福祉論	2	前	介護技術演習	2	前								
				介護概論	2	後	司法福祉論	2	後								
				障害者福祉論Ⅰ	2	前	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	前								
				障害者福祉論Ⅱ	2	後	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	後								
				児童・家庭福祉論Ⅰ	2	前	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	前								
				児童・家庭福祉論Ⅱ	2	後	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	前								
				ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	前	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	1	後								
				ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	後	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	通								
			社会福祉実習入門	1	前												
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	後												
			ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	後												
	ゼミナール					○社会福祉専門ゼミナール	2	後	○卒業ゼミナールⅠ ○卒業ゼミナールⅡ 卒業論文	2 2 4	前 後 通	6					
													24	44	36	20	124

【人間科学部】

人間科学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース 開講科目表

○は必修科目

区 分			第 一 年 次		第 二 年 次		第 三 年 次		第 四 年 次		卒業に必要な単位数			合計	備 考		
			授業科目	単 位 時 期	授業科目	単 位 時 期	授業科目	単 位 時 期	授業科目	単 位 時 期	必修 選択	専攻 選択	自由 選択				
全 学 共 通 科 目	コ ア	仏 教	○仏教と人間Ⅰ	2 前	○仏教と社会Ⅰ	2 前						8			●全学共通科目 ・必修科目16単位を 修得しなければならない。 ・「コア」の「女性」「ス キルズ」の「基礎」 「情報」より必修科 目以外に2単位以上 修得しなければならない。 ・「スキルズ」の「コミュ ニケーション」より 2単位以上修得しな ければならない。 ・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ のドア」より、それ ぞれ2単位以上修 得しなければならない。 ・「Global Project」 「Social Project」は、 大学で定められる各 種活動に取り組み、 その活動内容・時間 等により単位を認定 する。それぞれ6単 位まで修得すること ができる。		
			○仏教と人間Ⅱ	2 後	○仏教と社会Ⅱ	2 後											
		女 性	○キャリアデザイン	2 前	女性とキャリア A	1 前							4				
			○ジェンダー論入門	2 後	女性とキャリア B	1 前											
	ス キ ル ズ	基 礎	女性とウェルネスⅠ	1 前	女性と文化 A	1 前							2				
			女性とウェルネスⅡ	1 後	女性と文化 B	1 前											
		情 報	○基礎ゼミナール	2 前									2				
			日本語コミュニケーション	2 後													
		コ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン	○情報処理基礎演習	1 前	データサイエンス応用演習 A	1 前							2				
			○データサイエンス基礎演習	1 後	データサイエンス応用演習 B	1 前											
			情報科学概論	2 後													
			英語スキルⅠ	1 前	英語スキルⅢ	1 前								2			
			英語スキルⅡ	1 後	TOEIC Preparation	1 後											
			フランス語Ⅰ	1 前													
			フランス語Ⅱ	1 後													
			中国語Ⅰ	1 前													
			中国語Ⅱ	1 後													
			韓国語Ⅰ	1 前													
			韓国語Ⅱ	1 後													
			ド ア ー ズ	世 界 へ の ド ア	はじめての手法Ⅰ	1 前										2	
はじめての手法Ⅱ	1 後																
社 会 へ の ド ア	国際社会と文化 A	2 前											2				
	国際社会と文化 B	2 後															
学 び へ の ド ア	基 礎	スタディ・アブロード A	2 前									2					
		スタディ・アブロード B	2 後														
	情 報	Global Project	1 前														
		キャリアコミュニケーション	1 後	キャリアプラン	1 前								2				
	パーソナルファイナンス	1 後	企業研究	1 前													
	Social Project	1 後	インターンシップ研究	1 前													
	学 び へ の ド ア	哲学	1 前	ダイバーシティ論	2 後								2				
		倫理	1 前	日本国憲法	2 前												
メディア		1 前	人権教育	2 後													
芸術		1 前															
基 礎	教育	1 前										2					
	心理	1 前															
	環境	1 前															
	生命	1 前															

[現代社会学部]

現代社会学科 開講科目表

○は必修科目

区 分			第 一 年 次			第 二 年 次			第 三 年 次			第 四 年 次			卒業に必要な単位数				備 考		
			授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	授業科目	単 位	時 期	必修	必修選択	選択単位 学科選択	自由 選択		合計	
全 学 共 通 科 目	コ ア	仏 教	○仏教と人間Ⅰ	2	前	○仏教と社会Ⅰ	2	前							8			20 124	◎全学共通科目 ・必修科目16単位を 修得しなければならない。 ・「コア」の「女性」「ス キルズ」の「基礎」 「情報」より必修科 目以外に2単位以上 修得しなければならない。 ・「スキルズ」の「コミュ ニケーション」より 2単位以上修得しな ければならない。 ・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ のドア」より、それ ぞれ2単位以上修 得しなければならない。 ・「Global Project」 「Social Project」は、 大学で定められる各 種活動に取り組み、 その活動内容・時間 等により単位を認定 する。それぞれ6単 位まで修得すること ができる。		
			○仏教と人間Ⅱ	2	後	○仏教と社会Ⅱ	2	後													
			女 性	○キャリアデザイン	2	前	女性とキャリア A	1	前	後											
				○ジェンダー論入門	2	後	女性とキャリア B	1	前	後											
				女性とウェルネスⅠ	1	前	女性と文化 A	1	前	後											
	女性とウェルネスⅡ	1		後	女性と文化 B	1	前	後													
					ウェルネス・スポーツ論	1	前	後													
	ス キ ル ズ	基 礎	○基礎ゼミナール	2	前																
			日本語コミュニケーション	2	後																
		情 報	○情報処理基礎演習	1	前	データサイエンス応用演習 A	1	前	後												
			○データサイエンス基礎演習	1	後	データサイエンス応用演習 B	1	前	後												
			情報科学概論	2	後																
			英語スキルズⅠ	1	前	英語スキルズⅢ	1	前	後												
			英語スキルズⅡ	1	後	TOEIC Preparation	1	前	後												
			フランス語Ⅰ	1	前																
			フランス語Ⅱ	1	後																
			中国語Ⅰ	1	前																
	中国語Ⅱ	1	後																		
	韓国語Ⅰ	1	前																		
	韓国語Ⅱ	1	後																		
はじめての手話Ⅰ	1	前																			
はじめての手話Ⅱ	1	後																			
ド ア ー ズ	世 界 へ の ド ア	国際社会と文化 A	2	前																	
		国際社会と文化 B	2	後																	
		スタディ・アプロード A	2	後																	
		スタディ・アプロード B	2	前																	
		Global Project	1	後																	
	の 社 会 へ の ド ア	キャリアコミュニケーション	1	後	キャリアアプラン	1	前	後													
		パーソナルファイナンス	1	後	企業研究	1	前	後													
		Social Project	1	後	インターンシップ研究	1	前	後													
		哲学	1	前	ダイバーシティ論	2	後	前													
		倫理	1	前	日本国憲法	2	後	前													
	学 び へ の ド ア	メディア	1	前	人権教育	2	後	前													
		芸術	1	前																	
		教育	1	前																	
		心理	1	前																	
		環境	1	前																	
生命	1	前																			

学 科 専 攻 目 的	基 礎 科 目	社会学基礎	○社会学入門	2	前	社会学概説C	2	前										4 6 8 2 2 30 68 26 10 20 124	○学科専攻科目 ・必修科目52単位を修得しなければならない。 ・「基礎科目」の「社会学基礎」より必修科目以外に2単位以上修得しなければならない。 ・「基礎科目」の「社会学デザイン基礎」より必修科目以外に4単位以上修得しなければならない。 ・「基礎科目」の「キャリア」より必修科目以外に2単位以上修得しなければならない。 ・「現代社会理解」より必修科目以外に8単位以上修得しなければならない。 ・学科選択として、上記以外に「基礎科目」より4単位以上「現代社会理解」より6単位以上修得しなければならない。 ・「専門ゼミナールⅠ」「専門ゼミナールⅡ」「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の履修要件については、別に定める。 ・他学部等科目は20単位を上限に「自由選択科目」単位として含めることができる。 ※資格、前専攻の取得に必要な科目の修得単位数、修得方法については、別に定める。 ※授業科目は、年度によって開講年次や時期が変わることがあるので、授業時間割や掲載に注意すること。
			社会学概説A	2	前	社会学概説D	2	前											
			社会学概説B	2	後	社会学概説E	2	後											
		社会学デザイン基礎	○社会学デザイン基礎Ⅰ	2	前	社会学デザイン基礎Ⅲ	2	前	質的調査法	2	前								
			○社会学デザイン基礎Ⅱ	2	後	社会学デザイン基礎Ⅳ	2	後	量的調査法	2	前								
			○データから見る社会	2	前	調査データの読み方	2	前	社会調査実習演習	2	通								
			デジタルリテラシー論	2	前	調査データの扱い方	2	後											
			マーケティング基礎	2	後														
			調査データの集め方	2	後														
		キャリア	○ライフキャリア論	2	後	人間関係論	2	前											
			キャリアスキル入門Ⅰ	2	前	生活と経済	2	後											
			キャリアスキル入門Ⅱ	2	後	応用キャリアスキルⅠ	2	前											
	現 代 社 会 理 解	SDGsの理解																	
			○SDGs 概論	2	前														
			現代社会特殊講義Ⅰ	1	後														
		人間文化	現代社会特殊講義Ⅱ	1	後														
						○表現文化論	2	前	持続可能経営論	2	後								
						メディア文化論	2	後	ジェンダー・セクシュアリティ・スタディーズ	2	前								
									映像表現論	2	前								
		地域・環境・社会				○ソーシャルビジネス論	2	後	音楽文化論	2	前	創造性とアート	2	前					
						地域資源論	2	前	マネジメント論	2	後								
									観光学	2	後								
	ゼ ミ ナ ー ル	地球環境				○環境生態学	2	前	循環型社会論	2	前	防災論	2	前					
						地域環境論	2	後	生物多様性	2	後								
		平和・国際関係				○人権平和論	2	前	人権平和フィールドワーク	2	後	人間関係論	2	前					
						共生社会論	2	後	公共政策論	2	前								
		シニア・インターナショナル				○地域デザイン論	2	前	視覚デザイン	2	前								
						非言語表現論	2	後	コンテンツ文化論	2	後								
		ゼミナール	○現代社会基礎ゼミナール	2	後	○基礎専門ゼミナールⅠ	2	前	○専門ゼミナールⅠ	4	前	○卒業ゼミナールⅠ	4	前					
			○社会デザイン入門ゼミナールⅠ	2	前	○基礎専門ゼミナールⅡ	2	後	○専門ゼミナールⅡ	4	後	○卒業ゼミナールⅡ	4	後					
			○社会デザイン入門ゼミナールⅡ	2	後	○社会デザイン実践ゼミナールⅠ	2	前											
						○社会デザイン実践ゼミナールⅡ	2	後											

○筑紫女学園大学**教学推進会議**内規

平成30年5月31日

規程第18号

(目的)

第1条 この内規は、筑紫女学園大学（以下「本学」という。）に教学推進会議を設置し、学校法人筑紫女学園管理運営規則（平成8年則第2号）第13条及び筑紫女学園大学の組織に関する規程（平成30年程第21号）第2条に定める統合教育センター及び情報化・ICT活用推進センターの任務及び業務について審議し、統合教育センター及び情報化・ICT活用推進センターの円滑な執行を図ることを目的とする。

(構成員)

第2条 本会議は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 教学部長
- (2) 学長が前号以外の者に委嘱した統合教育センター長及び情報化・ICT活用推進センター長
- (3) 学長が大学文学部各学科、人間科学部人間科学科各専攻及び現代社会学部現代社会学科から1名宛委嘱した教育職員
- (4) 教学支援部長

- 2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、副学長を委員とすることができる。
- 3 本会議は、教学部長が招集し、議長となる。ただし、前項に該当する場合で、学長が必要と認めたときは、副学長を議長とすることができる。
- 4 本会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 5 議長が必要と認めたときは、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 6 第1項第2号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 教学推進会議は、主として次の各号に掲げる事項について審議し、計画立案する。

- (1) 統合教育センターに関する事項
- (2) 情報化・ICT活用推進センターに関する事項

(提案・報告)

第4条 教学部長は、本会議の審議事項のうち、特に重要と認めた事項については、あらかじめ大学執行部会議に付議するものとする。

- 2 学部委員等は、本会議の審議事項のうち、筑紫女学園大学教授会規程（昭和63年程第3号）第6条に定める審議事項に該当するものについては、教授会又は研究科委員会に、それぞれ提案又は報告を行うものとする。

（ワーキンググループ）

第5条 教学部長は、所管業務の円滑な執行を図るため、本会議のもとにワーキンググループを置くことができる。

（事務）

第6条 本会議に関する事務は、教学支援部が担当する。

（改廃）

第7条 この規程の改廃は、本学教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成30年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年5月15日から施行する。

附 則

この内規は、令和3(2021)年5月31日から施行する。

○筑紫女学園大学の教学組織に関する規程

平成30年 5 月31日

規程第21号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人筑紫女学園管理運営規則（平成8年則第2号）第13条及び筑紫女学園大学学則（昭和62年則第4号）第50条に基づき、大学に設置する部、センター等（以下「教学組織」という。）に関し、業務の効率的運営と責任の明確化を図るために必要な事項を定めるものとする。

第2章 教学組織の任務及び業務

(教務部)

第2条 教務部の任務及び業務は別に定める。

(統合教育センター)

第3条 統合教育センターは、本学における継続的な教育改善を推進し、大学教育の充実と発展に寄与するため、全学的な教育支援施策の企画及び開発を任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 教育内容及び教育方法の改善に関する事項
- (3) 教育効果の評価に関する事項
- (4) 教育的IR推進に関する事項
- (5) 学習支援に関する事項
- (6) 入学前教育に関する事項
- (7) 教育施設に関する事項
- (8) その他統合教育センターの運営に関する事項

(情報化・ICT活用推進センター)

第4条 情報化・ICT活用推進センターは、情報（視聴覚を含む。）機器・設備を管理し、本学教職員及び学生の教育・研究、事務及び修学に資することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報・視聴覚関連施設に関する事項
- (2) 情報・視聴覚関連教室の運営に関する事項
- (3) ICTを活用した教育の推進に関する事項

(4) その他情報化・ICT活用推進センターの運営に関する事項

(学生部)

第5条 学生部の任務及び業務は別に定める。

(学生サポートセンター)

第6条 学生サポートセンターは、学生・教職員のメンタルヘルスを含む心身の健康の維持と増進を図り、心理相談・修学相談を通して学生生活の充実を促進することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 体調不良及び傷病に対する応急措置に関する事項

(2) 健康管理、保健指導・健康支援、精神保健についての相談・指導及び支援に関する事項

(3) 定期健康検診の実施に関する事項

(4) 健康増進に対する指導・啓発に関する事項

(5) 学生の心理相談・修学相談に関する事項

(6) 障がいのある学生への修学支援（合理的配慮）に関する事項

(7) 障がいのある学生へのサポートスタッフの育成に関する事項

(8) その他学生サポートセンターの運営に関する事項

(臨床心理センター)

第7条 臨床心理センターは、地域住民に対する臨床心理相談及び臨床心理に関する援助活動並びに教育・研究を行うことを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 臨床心理相談及び援助活動に関する事項

(2) 心理実習及び臨床心理実習（心理実践実習）の実施に関する事項

(3) 臨床心理学に関する教育・研究・指導助言等の活動に関する事項

(4) その他臨床心理センターの運営に関する事項

(入試・広報部)

第8条 入試・広報部の任務及び業務は別に定める。

(高大連携センター)

第9条 高大連携センターは、本学と高等学校さらには地域の教育機関との連携を確立し、一体となって教育改革を推進するための施策立案と連携業務遂行を任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 高大接続推進にかかる企画・立案・運営に関する事項

(2) 「筑紫女学園大学・筑紫女学園高等学校 高大接続推進協議会」に関する事項

- (3) 地域の高等学校等との教育連携に関する事項
- (4) その他高大連携センターの運営に関する事項
(進路支援センター)

第10条 進路支援センターは、学生のキャリア形成を支援するとともに、学生が主体的に進路を選択し就職を決定できるよう多様なプログラムを通して支援を行うことを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) キャリア形成支援に関する事項
- (2) 企業の調査及び開拓に関する事項
- (3) 進路相談に関する事項
- (4) インターンシップに関する事項
- (5) 推薦のための学内選考に関する事項
- (6) 進路支援のための講座・検定等に関する事項
- (7) その他進路支援センターの運営に関する事項
(実習支援センター)

第11条 実習支援センターは、国家資格・免許状の取得に関わる教育課程における学外実習を支援することを通じて学生の資質向上に資することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う

- (1) 免許及び資格課程の実習に関するオリエンテーションに関する事項
- (2) 教職課程教育実習（免許状授与申請含む）に関する事項
- (3) 保育実習（資格申請を含む）に関する事項
- (4) 社会福祉士及び精神保健福祉士並びにスクール・ソーシャル・ワーク実習に関する事項
- (5) 心理実習・臨床心理実習（心理実践実習）に関する事項
- (6) 博物館学芸員実習に関する事項
- (7) 教育職員免許講習に関する事項
- (8) その他実習支援センターの運営に関する事項
(ボランティア活動支援センター)

第12条 ボランティア活動支援センターは、学生の学外ボランティア体験を支援することを通じて学生の資質向上に資することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) ボランティア情報の収集及び提供に関する事項
- (2) ボランティア活動への派遣に関する事項

(3) その他、ボランティア活動支援に関する事項

(社会連携センター)

第13条 社会連携センターは、本学の教育・研究成果による「知」を活用し、地域の人々に対し生涯にわたる多様な学びの機会を提供するとともに、地方自治体・企業・NPO等と連携することにより地域社会の課題解決と発展に寄与することを任務とし、次の各号を業務に掲げる業務を行う。

- (1) 生涯学習に関する事項
- (2) 公開講座・講演会に関する事項
- (3) 域学・産学官連携に関する事項
- (4) その他社会連携センターの運営に関する事項

(女性活躍支援センター)

第14条 女性活躍支援センターは、社会における女性のエンパワーメントを推進し、女性の人々の生涯教育を支援することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 女性のライフステージ教育プログラムに関する事項
- (2) 男女共同参画社会の推進に関する事項
- (3) ダイバーシティ教育・研究に関する事項
- (4) その他女性活躍支援センターに関する事項

(国際交流センター)

第15条 国際交流センターは、本学の教育と研究を世界に開かれたものとし、内外の学生及び教職員が世界的視野の下で共に研鑽を積むことにより、グローバル化が進行する現代社会で活躍できる人材の養成を図ることを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 国際化推進政策の立案に関する事項
- (2) 海外大学との連携に関する事項
- (3) 海外留学・研修に関する事項
- (4) 外国人留学生の支援に関する事項
- (5) 語学学習支援に関する事項
- (6) 海外研究者との交流に関する事項
- (7) 国際交流活動支援に関する事項
- (8) その他国際交流センターの運営に関する事項

(附属図書館)

第16条 附属図書館は、図書館所蔵の図書・資料を管理し、学生及び教職員の教育・研究

に資することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 図書・学術雑誌等の収集・整理に関する事項
- (2) 図書館システムに関する事項
- (3) 他大学図書館等との相互協力に関する事項
- (4) 紀要の刊行に関する事項
- (5) 図書館利用に関する事項
- (6) その他附属図書館の運営に関する事項

(人間文化研究所)

第17条 人間文化研究所は、仏教を中心とした学術研究を行うとともに、広く人間文化に関する総合的研究を推進し、国内外の大学及び諸研究機関との交流を図ることを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 仏教及び人間文化関連領域の指定研究、共同研究、個人研究・調査の促進に関する事項
- (2) 年報及び叢書等の刊行に関する事項
- (3) 研究会、公開講座、講習会等の開催に関する事項
- (4) 国内外の大学及び諸研究機関との交流に関する事項
- (5) 図書・資料の収集・整備に関する事項
- (6) その他人間文化研究所の運営に関する事項

(宗教教育センター)

第18条 宗教教育センターは、建学の精神の高揚に資することを任務とし、次の各号を業務とする。

- (1) 宗教教育センターの運営に関する事項
- (2) 年間の宗教行事の企画・運営に関する事項
- (3) 宗教教育に関する企画・研究に関する事項
- (4) 学生の宗教活動についての指導に関する事項
- (5) 研究会、見学会、講座・講演会、文書活動の企画・運営に関する事項
- (6) 宗教教育に関する資料の調査・収集・整備に関する事項
- (7) その他宗教教育の推進に関する事項

第3章 その他

(専門委員)

第19条 第2章に規定する組織の長は、学長の承認を得たうえで、当該組織に専門委員を

置くことができる。

(改廃)

第20条 この規程の改廃は、大学執行部会議の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成30年6月1日から施行する。

大学等名	筑紫女学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス教育プログラム	申請年度	令和7年度

1. プログラムの目的

世界ではデジタル化とグローバル化が不可逆的に進み、社会・産業の転換が大きく進んでいるため、「数理・データサイエンス・AI」は今後のデジタル社会の基礎知識（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）として捉えられ、全ての学生が身に付けておくべき素養とされている。

そうした背景から、筑紫女学園大学では、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切な理解と活用能力を育成する。

2. 身に付けられる能力(プログラムの学修目標)

- ❖ 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な知識・能力を身に付けること。
- ❖ 学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をベースに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる能力を身に付けること。

3. プログラムの構成科目と修了要件

- ❖ 令和6(2024)年度以降入学の全学生
- ❖ 以下の2科目(全学共通科目)をすべて修得することにより、本プログラムの修了とする。

科目名称	単位数	開講時間	卒業要件	プログラム終了要件
情報処理基礎演習	1	1年次前期	必修	必修
データサイエンス基礎演習	1	1年次後期	必修	必修

4. 実施・運営体制

「教学推進会議」(プログラム管理・運営)のもとに「データサイエンス部会」を設置し、全学的な教育支援施策を司る「統合教育センター」及び「情報化・ICT活用推進センター」と共同して、プログラムの編成・改善や自己点検・評価、情報公表などの運営体制を整える。

「データサイエンス部会」は、教学部長、統合教育センター長、情報化・ICT活用推進センター長及び専門委員、教学支援部長、教学推進班長を構成員とする。また、プログラム全体の運営責任者は、教学推進会議の長である教学部長とし、事務局を教学支援部 教学推進班が行う。

